

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 16 February 2017

工場での女性の健康に関する健康教育活動

2/13(月)～15日(水)にかけて、プノンペン経済特区内の Kanejyu Cambodia 工場にて健康教育を開催しました。

昼休みを利用した2交代制で、各回70名を対象に、計6回約420人に実施しました。工場スタッフは20代の若者が多く、他の工場に比べやや男性の割合が多い印象でした。第一回目のテーマは、「基本的な衛生と女性の身体について」です。

初回となる講座の開催に当たっては、工場の研修担当者とは度々打ち合わせの機会を設けました。工場内では、トイレの正しい使用方法や指定の場所へのゴミ捨てについて指導を行っているようですが、なかなか定着しないため、社員ミーティングの度に注意をしているそうです。そういった点も踏まえて、講義内容を組み立てることにしました。

Kanejyu Cambodia では、今後工場側で講座を自主開催できるよう、社内講師の育成も兼ねて研修を行うこととしました。講師となる研修担当スタッフは、医務室看護師1名、総務部の2名から成り、事前の打ち合わせからリハーサルまで大変熱心に取り組んでいました。教材を読み込み、参加者の理解を促すための正しい手洗いの仕方や、歯の模型を使った歯磨き指導のデモンストレーションといったアイデアを提案してくれました。それらの意見を取り入れ、他の工場とはまた違う Kanejyu Cambodia 工場オリジナルの健康教育が出来上がりました。

講師となった研修担当スタッフは、大勢の参加者の前で話すということで、最初は緊張しているようでしたが、回を重ねるにつれ、自信を持って取り組んでいる様子が伺えました。指導したカンボジア国立母子保健センター所属のセイン プッタ助産師も「安心して任せられる」と太鼓判を押していました。

今後は、家族計画や妊娠中のケア、子宮頸がんをテーマに2ヶ月毎の開催を予定しています。



(写真) Kanejyu Cambodia 工場



(写真) 健康教育風景



(写真)工場研修部スタッフによる健康教育

工場での子宮頸がん検診 準備委員会発足

6月に開始を予定しています工場での子宮頸がん検診について準備を始めるため、プロジェクト対象の三病院から各々2名の代表医師を選び、カンボジア産婦人科学会の理事でありますシム医師を代表とした子宮頸がん検診準備委員会が発足しました。カンボジアに派遣中の西野るり子医師がアドバイザーとして参加し、日本での検診の様子を写真で示したり、検診に必要な器材等のリストアップ、検診のマニュアル作成、検診時に必要な記入用紙の作成、工場での検診を想定したシミュレーショントレーニングを行いました。活動の詳細は、来月号でお届けします。



プロジェクトを取り巻く動き

- 1/28-3/11 : 西野るり子医師カンボジア派遣
- 1/28-2/4 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 1/30 : プロジェクト理事会
- 1/30 : 工場での検診準備委員会発足
- 2/7 : 第一回検診準備委員会
- 2/9 : SCGO 理事会
- 2/14 : 第二回検診準備委員会
- 2/16 : カンボジア実戦部隊医師と日本人医師による合同会議
- 2/21 : 第三回検診準備委員会
- 2/28 : 第四回検診準備委員会